

紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.65

成田市立図書館だより 第65号 2008年(平成20年)3月28日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646

FAX 0476-27-4641

<http://www.library.narita.chiba.jp>



えほんとおそぼう

—2・3才のおはなしかい—2008.2.27



2008年4月より、0・1歳向けのおはなし会と2・3歳向けのおはなし会を隔月でおこなうことになりました。お子さんと保護者の方が、絵本やわらべうたを一緒に楽しんでいただくおはなし会です。どうぞご参加ください。開催予定は、広報なりた及び図書館のホームページでお知らせいたします。

平成19年度 図書館講座

文学講座

「医学と文学のはざままで」

講師 医師・作家
海堂 尊 氏 2007.10.20



今回の文学講座は、現役の医師であり、かつ作家でもある海堂尊氏を講師に招き、「医学と文学のはざままで」と題してお話いただいた。海堂氏は、第4回『このミステリーがすごい!』大賞を受賞した『チーム・パチスタの栄光』(宝島社刊)で平成18年に文壇デビューされ、それ以降も意欲的に新作を発表されており、当館でも多くの利用者の支持を得ている作家である。それと同時に、当初は外科医、現在は病理医として多忙な毎日を送られている。当日は、医師であるかたわら、小説を書き始めたきっかけを始めとし、『チーム・パチスタの栄光』が出来上がるまでの過程をエピソードを交えて語られた。海堂氏が医療の現場で感じていた疑問や矛盾を広く社会に訴えるのに、小説



市史講座

「近世成田の俳諧事情」

講師 立教大学教授
加藤 定彦 氏 2007.11.10

今年度の市史講座は、立教大学教授の加藤定彦先生を講師に迎え、講演をしていただきました。先生は、県内の俳諧事情に詳しく、『下総町史 通史近現代編』では、「香取郡の俳壇状況」下総町の俳書と作者」を執筆されています。

講演は、先生と資料との出会いの話に始まりました。20年ほど前、俳諧資料を収集していたところ、古書店を通して、現匝瑳市蕪里の俳人玉斧の「俳諧撰集」と出会いました。

という手法を通して表現しようと思いついたことから、実際に小説がベストセラーとなり、当初の思いの幾ばくかが達せられるまでの過程は、興味深いものがあった。『バチスタ』では手術室内の殺人のトリックがまずひらめき、前半部分を一気に書き上げたこと。そこで、はたと筆が止まり、休暇で訪れたスキー場で、後半の白鳥捜査官が登場し物語が展開していくのを思いついたこと、帰路の新幹線の車内で原稿を書かれたことなど、作者としての“産みの苦しき”を紹介された。



さて『バチスタ』では、エーアイ(Ai)=オートプシー・イメージング(死体の画像診断)が殺人事件の謎を解く鍵になっているのだが、海堂氏は医師として、以前から死因解明の手段としてエーアイの有用性を説かれている。一般には、まだ馴染みが薄いエーアイであるが、先生は医師の立場でエーアイの専門書を上梓され、さらには一般向けに、さらに平易で廉価な解説書も出されている。そして小説として世に出た一連の作品が、エーアイについて理解されるきっかけになれば、という思いを熱く話された。さらに話は医療の現場の身を削るかのような忙しさと人手不足の問題、そしてそれを許している医療行政の貧困さにまで及んだ。その問題点を象徴している発言が『バチスタ』で犯人となった男が最後に呟いた「これじゃあ、医者も壊れるぜ」というセリフであると言われたのがたいへん印象的であった。

最初に、電話帳から玉斧の子孫を確かめ、手紙を送り訪問して、さらに資料が広がっていきました。このことによって、千葉県との縁が深まったのです。

続いて話は、北総地域の俳人や俳書、俳人たちの交流に及び、更に市内の句碑について話されました。先の玉斧は、天明8年(1788)に成田山境内に松尾芭蕉句碑を建てています。

俳諧を通して人々が交流し、文化が充実していった様子を理解することで、江戸時代を身近に感じることができました。当日は、雨にもかかわらず、43名の参加をいただきました。「大変参考になった」「今まで無意識に通り過ぎていた歌碑・句碑を、少し立ち止まって眺めてみようと思った」と感想を寄せていただきました。また、資料をご持参された方もあり、一部を拝見させていただきました。

今回の講演録は、平成20年度発行の『成田市史研究』で発表の予定です。また、地域の俳諧事情に関連した資料は、『大栄町史』に「木啄庵の俳諧」が、『成田市史 中世近世編』に「俳諧と狂歌」があり、時代はかわりませんが、『成田市史研究19号』には「俳諧明倫講社と成田の俳人 - 三森幹雄をめぐる人々 - 」があり、参考資料室の郷土資料コーナーでご覧いただけます。



赤ちゃんも絵本が大好き Part 11

「ぶーぶーぶー」

こかせさち / ぶん わきさかかつじ / え 福音館書店

あかいじどうしゃ ぶーぶーぶー。あおいじどうしゃ ぶーぶーぶー。いろいろなくなるまが出てきます。おおきいじどうしゃはぶわーん!くるまが好きな赤ちゃんに大人気の楽しい絵本です。



「たまごのあかちゃん」

かんざわとしこ / ぶん やぎゆうげんいちろう / え 福音館書店

たまごのなかで かくれんぼしてる 赤ちゃんはだあれ?でておいでよ・・・と呼びかけると、たまごのなかから ぴっぴっぴとにわたりのあかちゃんが出てきます。さて、次はなんの赤ちゃんがでてくるのかな?



「もこ もこもこ」

たにかわしゅんたろう / ぶん もとながさだまさ / え 文研出版

もこ もこもこ によき。もこもこもこ によきによき。と何だかわからない不思議なものがどんどん大きくなっていきます。「もこもこもこ」という言葉の繰り返しと、それにぴったりの絵がとても楽しい絵本です。



はたらくくるまシリーズ

「とどくかな」「まかせとけ」「よいしょ」

三浦太郎 / 作 偕成社

ダンプカーやブルドーザー、フォークリフトに消防車、みんなが大好きなはたらくくるまがたくさん登場します。赤ちゃんから幼児まで楽しめます。



編集後記

自動貸出機の設置から1年がたちました。貸出手続きを終えたのにゲートで鳴ってしまったという方もいらっしゃるのではないのでしょうか?自動貸出機では、貸出処理と貸出手続き確認装置に反応する磁気の処理を行っていますが、資料の置き方が正しくない場合は、磁気の処理ができず、ゲートで鳴ってしまいます。資料により、置き方が異なりますのでご確認ください。

成田市立図書館だより	
発行	成田市
編集	成田市立図書館
	〒286-0017 成田市赤坂1-1-3
	☎0476-27-4646
発行日	2008.3.28
登録番号	成教図07-053